

# 2023年度 寺山公園子育て交流施設「いーてらす」利用状況報告書

1. 年間利用者総数 136,485 人  
 前年度 120,414 人 前年度比(100) 113.3 % **16,071** 人増

平成30年4月8日開館以来の延来館者数 781,202 人

年間総開館日数 310 日 1日平均利用者数 440.3 人

## 曜日別利用状況

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜・祝日	計
0歳児～小学3年生	6,637	7,235	0	7,306	6,496	17,043	25,902	70,619
小学4年生以上	81	43	0	61	42	276	542	1,045
保護者等	5,948	6,547	0	6,556	5,684	15,171	23,855	63,761
ボランティア	11	5	0	21	9	21	18	85
見学	26	68	0	42	53	122	136	447
団体	280	29	0	127	92	0	0	528
合計	12,983	13,927	0	14,113	12,376	32,633	50,453	136,485
日数	46	51	0	49	47	51	66	310
1日平均人数	282.2	273.1	0.0	288.0	263.3	639.9	764.4	440.3
利用者構成比	9.5	10.2	0.0	10.3	9.1	23.9	37.0	100.0

## 2. 区分別利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
月別開館日数		26	27	26	27	26	26	27	25	24	24	25	27	310	
利用者数	0～小3	計	6,090	5,778	5,026	5,303	5,168	5,974	6,424	5,858	3,898	5,619	7,437	8,044	70,619
		1日平均	234.2	214.0	193.3	196.4	198.8	229.8	237.9	234.3	162.4	234.1	297.5	297.9	227.8
	小学4年生以上	計	138	119	81	87	75	70	78	76	48	74	91	108	1,045
		1日平均	5.3	4.4	3.1	3.2	2.9	2.7	2.9	3.0	2.0	3.1	3.6	4.0	3.4
	保護者等	計	5,516	5,476	4,537	4,740	4,436	5,382	5,720	5,283	3,516	5,133	6,884	7,138	63,761
		1日平均	212.2	202.8	174.5	175.6	170.6	207.0	211.9	211.3	146.5	213.9	275.4	264.4	205.7
	ボランティア	計	14	9	7	12	4	6	6	7	5	0	11	4	85
		1日平均	0.5	0.3	0.3	0.4	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.0	0.4	0.1	0.3
	見学	計	42	62	36	27	30	43	78	25	28	15	31	30	447
		1日平均	1.6	2.3	1.4	1.0	1.2	1.7	2.9	1.0	1.2	0.6	1.2	1.1	1.4
	団体	計	0	24	102	0	0	89	76	54	49	24	80	30	528
		1日平均	0.0	0.9	3.9	0.0	0.0	3.4	2.8	2.2	2.0	1.0	3.2	1.1	1.7
	合計	計	11,800	11,468	9,789	10,169	9,713	11,564	12,382	11,303	7,544	10,865	14,534	15,354	136,485
		1日平均	453.8	424.7	376.5	376.6	373.6	444.8	458.6	452.1	314.3	452.7	581.4	568.7	440.3

## 新規登録人数 1日平均 / 10.6人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規登録人数	315	220	290	294	260	270	304	240	157	237	339	369	3,295

## 利用者登録人数 (2023/4/1～2024/3/31)

登録地区	東区	中央区	北区	秋葉区	西区	南区	西蒲区	江南区	新潟市外	県外	合計
登録人数	858	744	279	156	434	43	32	276	410	63	3,295
割合	26.0%	22.6%	8.5%	4.7%	13.2%	1.3%	1.0%	8.4%	12.4%	1.9%	100.0%

## 年間運営総括及び来期への課題

・1ヶ月の利用が1万人を超えた月がほとんどで、年間では13万人を超える利用を頂いた。週末になると、1日1,000人以上の利用がある日も少なくなく、前年度に増して賑わった1年であった。低学年ひろばでは混雑状況にあわせて入場ストップをしたり、職員の見守りを2人体制にしたりするなど、安全に配慮した運営に努めた。

・リモート配信イベント「おうちでい〜てらす」は今期も継続して年4回行った。前期に課題としていた、イベントの認知度を広めていくことや参加しやすい工夫については、今期から開始時間を変更してみるなどの対応を行った。また、イベントの様子を録画して後日YouTubeで限定公開することで、利用者がいつでも見やすいよう工夫を行った。イベントには毎回数組の参加があるが、限定公開の動画は思っているよりも再生回数は伸びず、今後もイベントのあり方などを随時検討していく必要があると感じている。

・インスタグラムを活用したふれあい遊びやお楽しみ動画の投稿も毎月続けている。こちらは親子も気軽に見やすいという利点もあって、再生回数は多いときに2,000回以上と、多くの方に楽しんでもらっている。来期も続けて行っていきたい。

・10月末には0円バザーを開催した。コロナ禍前に一度開催した際とても好評だったイベントで、感染症の流行が落ち着いた今期、復活することとした。事前に子ども用品の寄付を募ると、子ども服や絵本をはじめ多くの寄付品が集まった。3日間行ったところ、合計で900名ほどの参加をいただいた。「次はいつやるか」、「どのくらいの頻度で開催しているか」、「寄付をしたい」といった声が多く聞かれ、イベントが終了した後も、電話で問い合わせが複数あるなど、想像以上の反響をいただいた。時期が秋だったこともあって夏服の寄付品が余っていることから、来期は春夏ごろの開催を目標としたい。

・こい来いフェスタは今期で5年目の開催となった。この5年間で、ゴールデンウィークになると寺山公園の空にたくさんのこいのぼりが泳ぐ様子は恒例となり、「寺山公園といえばこい来いフェスタ」というくらいに地域にも浸透している様子が感じられた。地域の小中高、大学、子どもからお年寄りが揃って運営に関わり、地域を盛り上げる大きなイベントとなっている。来年度からは運営主体が地域のコミ協に引き継がれる。地域住民の手で作上げていくイベントとして繋がっていくことを嬉しく思いながら、施設としても一緒に盛り上げていきたい。

・「東区2km子育てトライアングル魅力発信事業」として、わいわいひろば・こども創作活動館・い〜てらすの3施設で夏のスタンプラリーや、秋のこども文化祭を開催した。東区の自治体や小中学校、特別支援学校など多くの団体に協力をいただき、イベントは大盛況だった。今回のイベントを機に、東区の3施設を知ったという親子もおり、施設のPRにも繋がったと効果を実感している。3施設が地域で築いてきた繋がりを活かし、連携をさらに深めることができたイベントでもあった。

・定例イベントも継続して行っており、どのイベントもアンケートや親子の反応から、好評の声を多くいただいている。「おしゃべりテラス」では、今期も同じ母親にファシリテーターとして参加してもらった。また、常連の父親が新たにファシリテーターに加わってくれた。おかげで父親たちの参加にもつながり、パパ同士の交流の機会にもなった。また、育児のイライラなどを父親たちが共感してくれたことで、気持ちの救われた母親もいたようだった。夏休みになると、「8月はおしゃべりテラスがないのがさみしい」というママの声を受けた職員の提案により、「出張おしゃべりテラス」を新たに開催した。常連の保護者たちに協力してもらい、ひろばで遊びながら、気軽におしゃべりしやすい環境づくりに取り組んだ。協力してくれた保護者同士の繋がりが深まるなど、嬉しい様子もみられた。保護者の声に耳を傾け、ともに考え、必要とされることに繋げていく。この姿勢が施設運営において大切であると感じている。今後も継続していきたい。

・元日の震災は、幸いにも職員全員無事で、建物にも被害はなかった。地震や津波などの災害時の対応を職員間で再確認した他、区の担当課とも改めて確認を行った。いざという時に、迅速で的確な判断を行うようにするためには、日ごろからの備えが必要不可欠である。災害だけでなく不審者対応など、予期せぬ出来事に備え、避難訓練などを通して対応のあり方を職員全員で身につけていきたい。

・大勢の利用をいただく中で、単に遊び場としてだけではなく、支援の要素を求めて来られる保護者もいる。平日も平均で300人ほどの利用がある中で、親子の困り感にどう気付くか、挨拶や会話など日々のささいなやりとりの大切さを実感している。親子の思いに気づき、汲み取り、察知するアンテナが職員に求められている。全員そろっての職員会議を月2回は行うようにしている。職員間の情報共有を怠らず、連携した関わりを今後も継続していきたい。

・私たちは来期で運営7年目を迎える。長く続けているからこそ、当たり前になっていることにも目を向けていくことが大事であると感じている。その時の状況にあわせ、いま求められているものを敏感にキャッチし、運営にいかしていけるような視点と姿勢を持ち続けていきたい。

## 総括・自己評価

・年間で136,485人の利用があった。前年度に比べ、16,071人増加している。週末は利用数が1日1,000人を超えた日も少なくなかった。感染症の流行が落ち着き、市外や県外からの利用も多くあった。

・職員は安全面への配慮を常に意識しながら運営に取り組んだ。大型遊具でのヒヤリ・ハットが何件かあったことや、そのほとんどが0～2歳の未満児であったこと等を受けて、保護者の方たちに向けた「い～てらすでのきまり」の内容を改めて見直すこととした。大型遊具が小学生向けの仕様となっている点や、未就学児は必ず保護者の付き添いのもと遊んでいただきたいという点を、きまりの文面に明記し、常連の方たちを含め来館した保護者全員に確認してもらった。これまで口頭で説明していた内容も、可視化したことでより伝わりやすく、職員もより説明がしやすくなったと感じている。今後も周知を続けながら、利用者とともに安全な施設運営に取り組んでいきたい。

・利用者の中には、気になる親子の存在も少なくない。育児に悩む保護者から切実なSOSの声が聞こえることもあれば、職員に対して不機嫌に理不尽な言動をされる保護者もいる。虐待を疑われる保護者の言動もあった。職員は日々の関わりの中で、親子の困り感を受けとめ、寄り添う姿勢を心掛けた。保護者からの相談に応じた内容を記録にまとめ、職員間でも共有を行っている。子育て施設の役割は、繋ぐことでもある。区の担当課への迅速な報告を心掛け、関係機関と連携しながら対応に努めた。毎月の東区定例会では、わいわいひろばやこども創作活動館と情報共有を行うことで、横のつながりを活かしながら、地域で子育て家庭を見守っていく体制づくりにも取り組むことができている。

・今期は地域の学校や大学との繋がりがより深まった1年でもあった。新潟県立大学からは、子育て支援演習や見学実習における学生の受け入れを行った。親子からも学生との関わりを喜ぶ声が聞かれた。また、子育て支援演習に来てくれた2名の学生は、演習の期間が終わった後もイベントの手伝いに来てくれるなど、嬉しい繋がりも生まれた。

・小中学校の職場体験や課外授業の見学を4件受け入れた。5月末のフィールドワークでの見学をきっかけに、木戸中適応教室の2名が授業の一環として、毎月2回定例イベントの手伝いに来てくれた。6月から半年以上欠かさず来てくれ、親子や職員との関わりを続けていくうちに生徒の前向きな変化を感じることもできた。地域の中学生に向けて、学校以外での経験の場を提供できたことや、中学校にもその様子を随時報告しながら、ともに生徒の成長を見守れたことは、地域の一員としても嬉しい経験であった。

・一時保育は、開館時間の9時ぴったりに電話が相次ぎ、2週間後の申込みが埋まる日もあるほど、ニーズの高さを痛感している。なかには双子の1歳児の利用や、発達に遅れのある子など、親子の様子からしてみても、保護者の困り感やひっ迫した状況

がひしひしと伝わってくるケースもある。予約の前に「こういった子も預かってもらえるのでしょうか」と問い合わせを受けたケースもあった。そうした不安の声を受けとめ寄り添いながら、レスパイト保育を意識した一時保育に取り組んでいる。一人ひとりに寄り添った保育が、ニーズの高さにも繋がっていると実感しているが、その一方で、予約の枠に余裕がなく希望に応えられない日もあった。その現状を改善すべく、2月からは新たに保育専任のスタッフの起用を行った。今後も職員全員で連携しながら、安心して過ごせる一時預かりを行っていきたい。

・小学生だけで遊びに来る子どもたちの姿も増えている。特に年度末が近づくにつれて2～3年生が揃って来館し、低学年ひろばで活発にボール遊びをしたり運動遊びをしたりと館内で過ごす日が続いた。幅広い年齢の子どもたちが集うことで、安全面への配慮に難しさを感じる場面もあったが、地元の子どもたちが放課後や休日に気軽に居場所として来ることができるというのは、施設のもつ大きな役割の一つでもあると改めて認識することができた。地域のサードプレイスとしての役割を担えるように、今後も居心地の良い居場所づくりに努めていきたい。